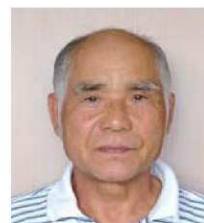


町議会の傍聴には毎回参加している。9月議会では7名の一般質問を傍聴した。今回は菊陽町や菊池市の両議員が傍聴し、



松岡征一郎さん
(下町)

議会を 傍聴して



江嶋さん
(吹田)

議会の傍聴は、機会あるごとに行っていますが、その都度、町民の代表であります町議の方々のご

苦勞、行政の皆様方のご苦勞に感謝をしています。大津町に山積みする諸問題を限られた予算で、

適時適切に判断をし、処置するかを日夜、町長以下は検討・審議され、町民が、安心・安全・快適に生活が出来る町づくり

に奮闘されている様子がうかがえて安心をしています。その施行には即効性を有する事項、また時間をかけ検討する事項

があると思います。特に人命に関する事項は、即

白熱した議論を期待したが、中には議論が噛み合わず、平行線のまま質疑が終了したのは誠に遺憾であった。

議員は事前に質問通告書を提出しているのだから、行政はそれなりの答弁書を携え議会に臨む。当然、議員も行政の答弁を想定し質問しているはずである。とすれば、再

質問の権利を有する議員は、もっと現場を検証し、入念な事前準備を重ねて想定答弁を越える回答を

実行をしてもらいたいと思います。私は肥後大津防災クラブの一員で、こ

とさら防災については興味があり、毎回各議員の方々が地域防災等について質問されています。

去年の7・12災害以降、私も含め町民の方々も防災について興味津々です。被災地の皆様が一日でも早く、安心・安全に生活

が出来るように行政の力添えをお願いします。

引き出す熱意を持たねば、行政の高い壁に阻まれるのは自明の理である。

議員報酬は毎月支給されている。議員は常時、

行政の問題点や課題を掘り起こし、民意を議会に反映すべく真摯な努力を怠ってはなるまい。

最後に、議会選挙の投票率も大幅に下降した。議会の情報公開を進めるために休日議会や議会録画の公開など、早急に取り組むべき課題は多いと思われる。

平成25年度

議会運営委員会研修報告

7月4日、5日に委員と執行部、事務局で佐賀県みやき町と武雄市の2ヶ所で研修を行った。

まず、みやき町では、「議会運営全般」と「議会活性化の取り組み」について研修を行った。みやき町は平成17年3月に3町が合併し、人口約2

万6千人で議員定数は18人である。常任委員会は3委員会に議会運営委員

会、特別委員会は広報、議会改革、定住対策の3委員会、審議において

は本会議主義を採用しており、全協と常任委員会を月に1から2回開催しているとのこと。議会改

革については、平成23年12月に特別委員会を設置し、全議員を委員として月1回は委員会が開催し

ており、早急に改革を実施すべきもの(今期中)と今後の検討課題とするものとの項目が分けられている。

みやき町議会の議会改革については、大津町議

会と同レベルでの進行であるが委員会での審議回

数はみやき町議会が非常に多い。今後大津町議会

において具体的な取組み等を協議する中では、議員全員により十分な議論を行い実施していくことが必要である。

次に、武雄市においては、「フェイスブック」・「文字通訳瞬時ネット」・「議場モニターの活用」について研修を行っ

た。武雄市は、平成18年3月に武雄市と山内町、北方町が合併し、人口約5

万1千人の小規模都市である。最近メディアに数多く取り上げられてい

る市で、全国から年間200組を超える視察を受け入れており、視察の目的はほとんどが「行政におけるフェイスブックの活用」である。

市議会のIT化については、議会中継は30年の歴史があり市民の関心は高く、問い合わせや傍聴

者も多い。ケーブルテレビの放映、ユーチューブの配信も行われており、ケーブルテレビの加入率は92・8パーセントとなっている。

今年の6月定例会からは「文字通訳瞬時ネット」が導入され、映像と同時に発言が文字に反訳され同時放送されている。瞬時反訳のため誤字脱字はあらかじめ了解いた

た。このように周知しているの事である。また、議場におけるモニター、パソコン、iPad等の使用を平成24年1月に議会

改革特別委員会で検討し、議運において決定され、3月議会から機器の使用を開始し、一般質問では

16名中14名はモニターを活用。執行部の回答にも利用され、傍聴者及び放映画像を視聴された方からはわかりやすいとの意見が寄せられているとの

ことで、議場へのIT機器の持ち込みとモニターの利用については検討すべき課題ではないかと考

える。